

IV-10 マトリクス演算による三角測量の厳密解法

—単三角鎖の平均調整計算について—

熊本大学 正員 三池 亮次
熊本大学 正員 〇星田 義治

① はしがき

三角鎖を解くには、①三角形の条件、②方向角の条件、③辺の条件、④座標の条件を同時に満足するように、最小二乗法に基づいて解くのが最も厳密な方法であるが、普通には、各条件を第1次から第4次調整に分離して解く便宜的方法によっている。

本論文では、三解鎖の厳密解法に、マトリクス演算による条件付間接測定の解法^{※1)}を用いるため、座標の条件をテーラー展開を用いて線形化した。①～③の条件式については、現在まで提案されている式を用いた。ここでは、①～④の条件を同時に満足するように解き、これを便宜的方法と比較検討した。

このような、電子計算機の使用を前提とした、マトリクス演算による解法は、測量における計算の正確性、能率化という要求にとって、極めて有効な方法であると思う。

② 単三角鎖の平均調整計算理論

① 三角形の条件式

$$\varphi_i \equiv \omega_i + \Delta a_i + \Delta b_i + \Delta c_i = 0$$

ただし

$$\omega_i = a_i + b_i + c_i - 180^\circ \quad [i = 1, 2, 3, \dots, n]$$

② 方向角の条件式

$$\varphi_{n+1} \equiv \omega_{n+1} + \sum_{i=1}^n (-1)^{i+1} \Delta c_i = 0$$

ただし

$$\omega_{n+1} = (T_a - T_d) + \sum_{i=1}^n (-1)^{i+1} c_i + 180^\circ (n-1)$$

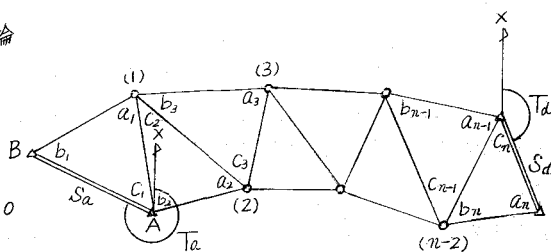
③ 辺の条件式

$$\varphi_{n+2} \equiv \omega_{n+2} + \sum_{i=1}^n \alpha_i \Delta a_i - \sum_{i=1}^n \beta_i \Delta b_i$$

ただし

$$\omega_{n+2} = (\log S_d + \sum_{i=1}^n \log \sin a_i) - (\log S_a + \sum_{i=1}^n \log \sin b_i)$$

$$\alpha_i = \frac{M}{P} \cot a_i, \quad \beta_i = \frac{M}{P} \cot b_i$$



④ 座標の条件式

(i) 緯距に対して

$$\mathcal{F}_{n+3} = W_{n+3} + \sum_{i=1}^n (\rho a)_i \Delta a_i - \sum_{i=1}^n (\rho b)_i \Delta b_i - \sum_{i=1}^n (\rho c)_i \Delta c_i = 0$$

(ii) 経距に対して

$$\mathcal{F}_{n+4} = W_{n+4} + \sum_{i=1}^n (\sigma a)_i \Delta a_i - \sum_{i=1}^n (\sigma b)_i \Delta b_i - \sum_{i=1}^n (\sigma c)_i \Delta c_i = 0$$

ただし

$$W_{n+3} = (X_c - X_a) - \sum_{i=1}^n P_i, \quad W_{n+4} = (Y_c - Y_a) - \sum_{i=1}^n Q_i$$

$$(\rho a)_i = \frac{\cos a_i}{\sin a_i} \frac{1}{P} \sum_{k=i}^n P_k, \quad (\rho b)_i = \frac{\cos b_i}{\sin b_i} \frac{1}{P} \sum_{k=i}^n P_k, \quad (\rho c)_i = \sum_{k=i}^n (-1)^k Q_k \frac{1}{P}$$

$$(\sigma a)_i = \frac{\cos a_i}{\sin a_i} \frac{1}{P} \sum_{k=i}^n Q_k, \quad (\sigma b)_i = \frac{\cos b_i}{\sin b_i} \frac{1}{P} \sum_{k=i}^n Q_k, \quad (\sigma c)_i = \sum_{k=i}^n (-1)^k P_k \frac{1}{P}$$

$$P_i = \frac{S a \sin b_1 \sin b_2 \cdots \sin b_i}{\sin a_1 \sin a_2 \cdots \sin a_i} \cos (T_a + C_1 - C_2 + \cdots + (-1)^i C_i + 180^\circ(i-1))$$

$$Q_i = \frac{S a \sin b_1 \sin b_2 \cdots \sin b_i}{\sin a_1 \sin a_2 \cdots \sin a_i} \sin (T_a + C_1 - C_2 + \cdots + (-1)^i C_i + 180^\circ(i-1))$$

上の条件式 (n+4) 個 を同時に解くとよい。

③ マトリクス演算による実例計算

マトリクス演算における $y = X\beta + e$ の線型回帰模型で、 $y = y_1 + \Delta y$, $\beta = \beta_1 + \Delta\beta$ とおくと、この場合は、 X が単位マトリクスとなるから

$$\Delta y = X \Delta\beta + e$$

$$\text{条件式は} \quad \mathcal{F} \equiv a_0 + A \Delta\beta = 0$$

となる。ここで、 Δy は観測変量、 X は指定変数、 $\Delta\beta$ は未知量、 e は偏差で、その期待値 $E[e] = 0$ であるとする。

これより、未知量の最確値、残差平方和、未知量の最確値の分散は次の (1), (2), (3) 式のようになる。これらの式に、観測データ^{*2)} を入れて電子計算機で求めた。

$$\Delta \hat{\beta} = S_p^{-1} (X^{(t)} Q \Delta y - A^{(t)} S_{Ap}^{-1} W) \quad \text{----- (1)}$$

$$S_E = \Delta y^{(t)} Q \Delta y - \Delta \hat{\beta}_0^{(t)} X^{(t)} Q \Delta y + W^{(t)} S_{Ap}^{-1} W \quad \text{----- (2)}$$

$$C[\Delta \hat{\beta}] = E \left[\frac{S_E}{n-(p-1)} \{ S_p^{-1} - (A S_p^{-1})^{(t)} S_{Ap}^{-1} (A S_p^{-1}) \} \right] \quad \text{----- (3)}$$

結果及び考察は、講演時にのべる。

*1) 三池・星田：マトリクス演算による条件付間接測定の解法について (土木学会講演 44-11)

*2) 土橋：基準点測量 (山海堂) p.226 ~ p.228